

分科会提案（３）

- ① 保健体育科 分科会
- ② 外国語・英語科 分科会
- ③ 特別の教科 道徳 分科会





保健・体育科

深い学びとは

学習内容となる運動感覚・技能を身に付ける過程において、課題を見付け、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学び。

あなたは、跳び箱運動の練習をしています。どちらが自分の動きを修正しやすいですか？

A

もっとピタツと着地して

と言われてもできないんだよな…

膝を曲げればいいんだよ

自分はどれくらい曲がっているのかな…

目線は前

いつ前を向くのかな…

B



動画を見てごらん。
ピタツと着地できていないよ。

ぼくの課題が分かった！



今はほとんど膝がまがっていないよ。稔君と比べて見よう。

おしりに着くぐらいまげるんだな！



このタイミングで、目線を前にするだよ！

着手した後、前を見るんだ！

深い学びを実現するための学習の流れと ICT 活用例



3年 器械運動「跳び箱運動」

本時のねらい

自分に合った練習をして、技を上達させよう。(台上前転)

ICT活用

- ・タブレットPCで撮影し自分の動きを確認する。
- ・動画をグループで見合い、アドバイスし合う。
- ・課題を解決できない児童に、教師が個別に動画を見せる。

※動画を見る時の視点を明確にする。



6年 陸上運動「走り高跳び」

本時のねらい

自分や仲間の課題を見付けて、仲間と教え合いながら工夫して練習しよう。

ICT活用《みつけタイム》

- ・前時に記録した映像をチームで見合い課題の確認をする。
 - ・動画を見合いながら課題とよくなった点を確認し、チャレンジタイムの場を選択する。
- ※毎時間の動画が学びのポートフォリオとなる。

小学部

5年

単元名

ボール運動 ゴール型「フラッグフットボール」

本時のねらい

チームの特徴に応じた作戦を選んだり、振り返ったりする。

ICT

- 課題解決の手掛かりとなる学びの支援機能
【タブレットPC・デジタルコンテンツ】
- 課題設定と振り返り
【タブレットPC・カメラ機能】

授業の様子

前時に見られたよい動きを動画で紹介し教師が価値づけることで、よい動きの共有化を図ると共に、本時の課題設定を行うことで、学びに向かう意欲を高めることができた。また、チームの動きを振り返る際に動画を活用することで、自分たちの動きを客観的に見て話し合うことができた。また、個で振り返る時間を十分に確保することで、チームの作戦のよさと改善点について問い直すことができた。

また、ゲームに関する基礎知識やチームの課題を解決する方法を調べることができるソフトを活用することで、チームの課題を修正したり、新たに課題を設定したりすることができた。



前時にグループ毎に撮影した動画の中から、よい動きを紹介し、本時の課題設定を行った。



チームの作戦がしっかりと実行できたか振り返るために、攻める様子を撮影した。



当日、ここで流させていただいた「活動の様子動画」は、データが大きすぎるため、ホームページ掲載版では削除しています。ご了承ください。







フラッグフットボール



オリエン
テーション

作戦
づくり



ウォーミング
アップゲーム

ゲーム

練習
メニュー



ヘルプ

DIF (Digital Instructional tool for Flagfootball)
～フラッグフットボールのためのデジタルコンテンツ～



中学部

単元名

8年

器械運動「マット運動」

本時のねらい

自分の課題を知り、

ICT

- 動画と静止画による資料提示
- 課題解決の手掛かりとなる学びの支援
(学習探検ナビ - 体育デジタルコンテンツ)

授業の様子

単元の導入では、昨年度までの生徒の連続技の見本動画をみせ、技の滑らかさや発表会の緊張感を見せた。

新たな技や個人の技を高めるために、インタラクティブボードを使用し、『学習探検ナビ - 体育デジタルコンテンツ - 』で技の映像を見た。技の仕方を説明しながら、着手・回転動作・着地など細かくポイントをおさえた。

自分の選択した技を練習していく中で、タブレットで撮影し、アドバイスし合うように指導した。班の友だちからのアドバイスでも息詰まると、インタラクティブボードで技の見本動画を再度確認していた。自由に技を選択し、確認できるようにしておいたので、個人に合った学習の進め方ができていた。

振り返りでは、上手にできていた生徒の映像を見せ、次の目標への意欲づけを行うことができた。



インタラクティブボードを使用し、技の動画を確認。技を高めるためのポイントを確認する。



グループで動画を撮影し合い、グループで技を見合ってアドバイスしあう。

成 果

- 手本となる動きを動画で何度も確認することができるため、よい動きを知ることができ、技能の高まりにつながった。
- 動画で自分の動きや友達の動きを見ることで、自己の課題が明確になり、学習に向かう意欲が高まった。

課 題

- タブレットの準備に時間がかかり、運動量の確保が難しくなった。
- ただ動画を見るだけの活動で終わらず学習課題に迫ることができようするために、動画を撮る時や見る時の視点を明確にすることが大切である。



webで最新の
指導案集を公開中

杉並和泉学園のホームページで最新の体育科の指導案集を公開しています。

<https://drive.google.com/file/d/1qdg0DJTVeE3dy07xQHIUG7KRu6bhP4ah/view?usp=sharing>

※一定期間をすぎますと公開を終了させて頂く場合がありますのでご了承ください。

詳しくはこちらから→



- ① 深い学び
- ② 自評（小学部）
- ③ 自評（中学部）
- ④ 実践事例（中学部）
- ⑤ 成果と課題





外国語・英語科

深い学びとは

コミュニケーションの目的や場面、状況に応じ、これまでの知識や経験に関連させ、情報や考えを整理、再構築すること

それを英語で表現し伝え合い、理解する学び



5年生

We Can! 1 Unit 8 「料理・値段」 “What would you like?”

本時のねらい

様々な状況に対応し、丁寧に注文を尋ねたり答えたりして、自分の考えを伝え合う。



英語でのコミュニケーション力



英語が使われる状況設定

ハンバーガーショップ

レストラン



実際に近い状況下で
コミュニケーション
ICT活用





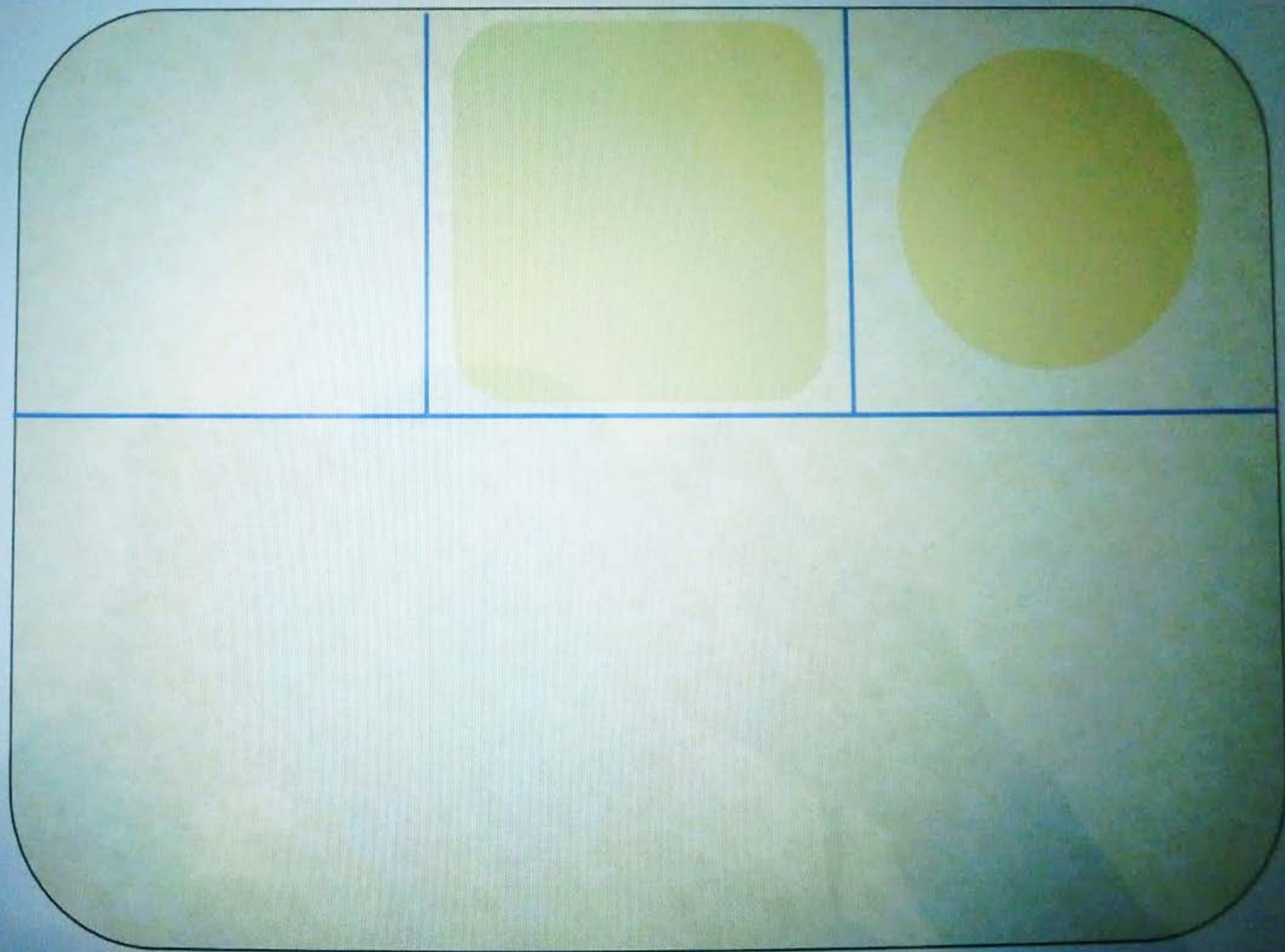
Main dish



Left sidebar menu:

- 1 Main dish (with food icons)
- 2 Side (with food icons)
- 3 Drink (with drink icons)
- 4 Dessert (with dessert icons)
- 5 (with two yellow circles icon)
- 6 ページを追加 (Add page)

Bottom sidebar icons: 印刷 (Print) and コピー (Copy).



Main dish

Side

Drink

Dessert

ページを追加



様々な課題に対応

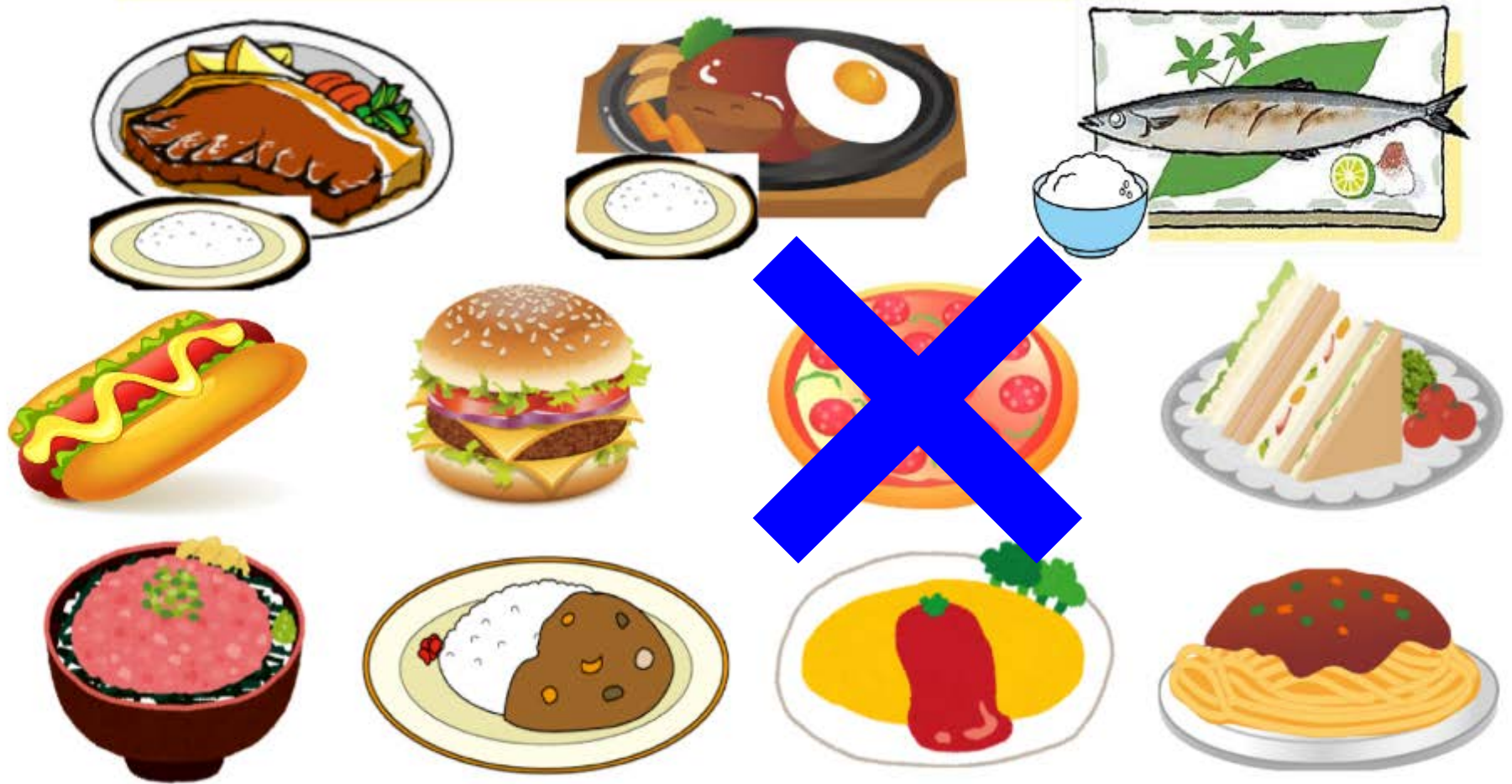


実際に近い状況下で
コミュニケーション

ICT活用



Main dish



深い学び



様々な課題に対応



実際に近い状況下で
コミュニケーション

ICT活用

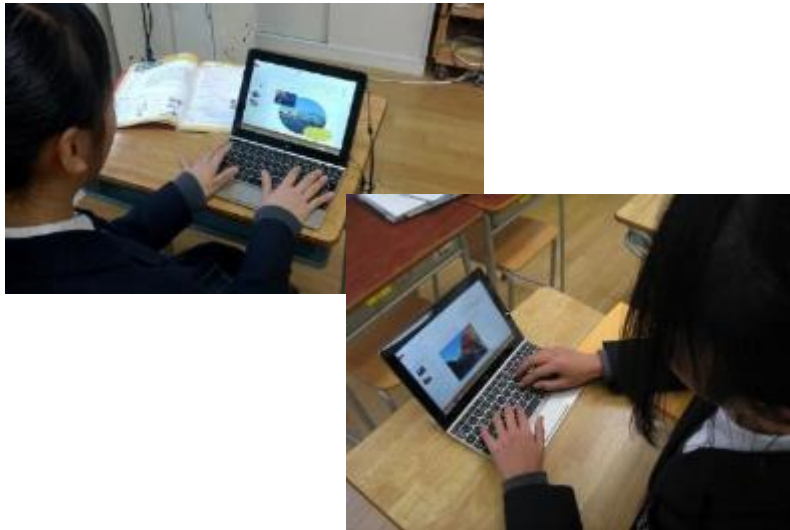


8年生 英語科

「Presentation 2 町紹介」

本時のねらい

外国人観光客に向けて、東京の魅力を発表しよう。



**1. プレゼンテーション
ソフトを使って、発表用
スライド作りをする。**

**2. 東京オリンピックに向
けて、自分たちが住む「東
京の魅力」を改めて知る。**



3. 「〇〇を紹介したい！」 「〇〇の良さを伝えたい！」の気持ちを大切にする。→ 主体性

4. 質疑応答、感想を伝える

→英語でのコミュニケーション場面の設定をする



7年 UNIT 7

「ブラジルから来たサッカーコーチ」

本時のねらい

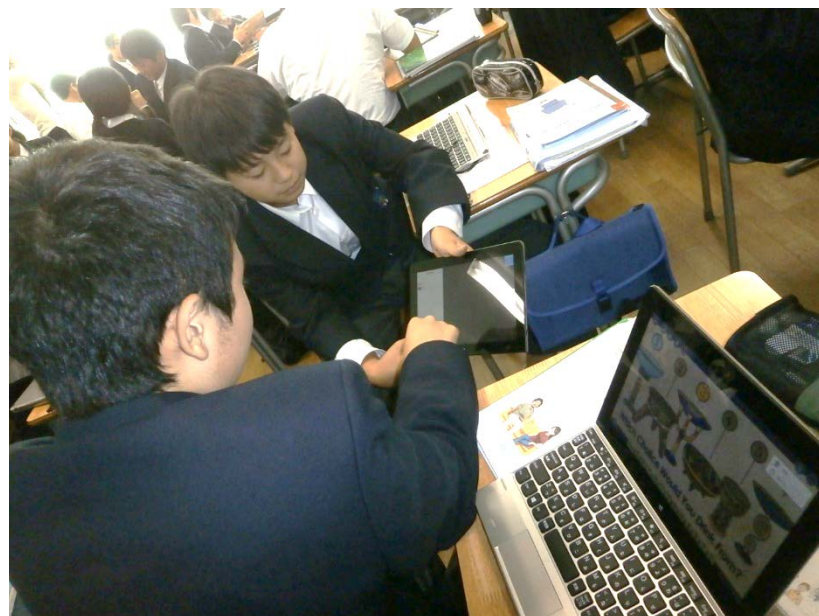
「どちらが…か？」ということを、
たずねたり、質問に答えたりする。

ICT活用

① インフォメーションギャップによるタスクベースのアクティビティ（2人組）

→ タブレットPCの絵を使って、パートナーに質問をする、質問に答える。

<性格判断クイズ>



- ◀ パートナーにタブレットPCの4つの絵を見せながら、どれがよいか質問をする。4つの絵の中から1つを選び、パートナーの質問に答える。

4つの中からパートナーが選択した絵について、簡単な英語による解説を伝える。



7年 UNIT 7

「ブラジルから来たサッカーコーチ」

本時のねらい

「どちらが…か？」ということを、
たずねたり、質問に答えたりする。

ICT活用

② ビンゴ形式によるタスクベースのアクティビティ（学級）

→ タブレットPCの絵を使って、パートナーに質問をする、質問に答える。



◀ 「ロイロノート」の指定された共有フォルダーから、アクティビティに使用するファイルを、個人のタブレットPCにダウンロードする。

<たくさんビンゴを作った人が優勝>

25マスのビンゴ表でそれぞれ2つのアイテムのどちらが好きかを質問する

自分と同じものが好きだった場合だけ、相手にサインを書いてもらえる

たくさんサインをもらってビンゴをできるだけたくさん完成させる



成 果

- アクティビティの中で I C T を効果的に活用することで、活動にリアリティをもたせることができ、コミュニケーションを、より活発にすることができた。
- 画用紙などの紙ベースだけでなく、I C T 機器を活用することで、写真や動画、統計や地図などの画像を提示することも可能となり、発表手段の幅が広がり、内容が濃くなった。

課 題

- よりコミュニケーション的な活動を、I C T を活用して行うためには、教材の準備等に時間や労力がかかることもあり、教材の一層の充実や普及が求められる。
- プレゼンテーションソフトを使用することによって、聞き手に与える情報量が多すぎてしまうこともある。
- 機器の操作ミスや動作不良で活動や授業の流れが止まってしまうこともある。



特別の教科道徳

深い学びとは

自己を見つめ、物事を広い視野から

多面的・多角的に考え、

人としての生き方についての考えを深める学び

深い学びを実現するための学習の流れとICT例

導入

展開

終末

学習活動

内容を共有する



考えを広げる・深める



自己について問い直す

ICT

・教材への理解を助ける

・教材提示
・個々の考えを共有し、多面的・多角的に考えを広げる

小学部

単元名

5年

理解する心「心のレシーブ」

本時のねらい

男女互いに理解し合って友情を育て、協力しようとする心情を育てる。

ICT

● 個々の考えを共有し、多面的・多角的に考えを広げる手立てとする。

【タブレットPC・ロイロノート】

授業の様子

導入時に、「男女は分かり合えるか?」という質問を投げかけた。各児童のタブレットPCのソフト、ロイロノートにYES/NOの帯グラフ送り、自分の思いに合わせて色を塗り分けた。異性に対する不満や訴え、先入観などが出てきて、日常の中に異性に対する思い込みがあることを自覚するようにしてねらいへの方向付けを行うことができた。

展開時では、発問を通して考えを深めていく中で、主人公である陽子が最終的に笑顔になり男女のソフトバレーチームの心が一つにまとまるという心の変容を追うため、書画カメラで陽子の表情を映しながら主題に迫っていった。その際、登場人物たちがどのようにして「互いに分かり合う」という問題を克服していったのか、男女の立場から多面的・多角的に考えられるように配慮もした。

道徳の授業終了後、一人の児童が、「手を挙げて自分の考えや思いを言葉にするのは難しいんだけど、今日のようにグラフ

にすることができてうれしかった。」と感想を述べた。自分の思いを主体的に発信するための一つの手だてとしてICTの活用は有効であると考える。



導入時、個々のロイロノートにYES/NOの帯グラフ送り、自分の思いに任せて色を塗り分けた後、担任に提出。全員の思いが可視化され、YESの割合が多い人、NOの割合が多い人、半分半分の人、それぞれの理由も聞き考えを共有し合う



主人公である陽子が最終的に笑顔になり男女のソフトバレーチームの心が一つにまとまるという心の変容を追うため、書画カメラで陽子の表情を映しながら主題に迫る。

5年 理解する心「心のレシーブ」

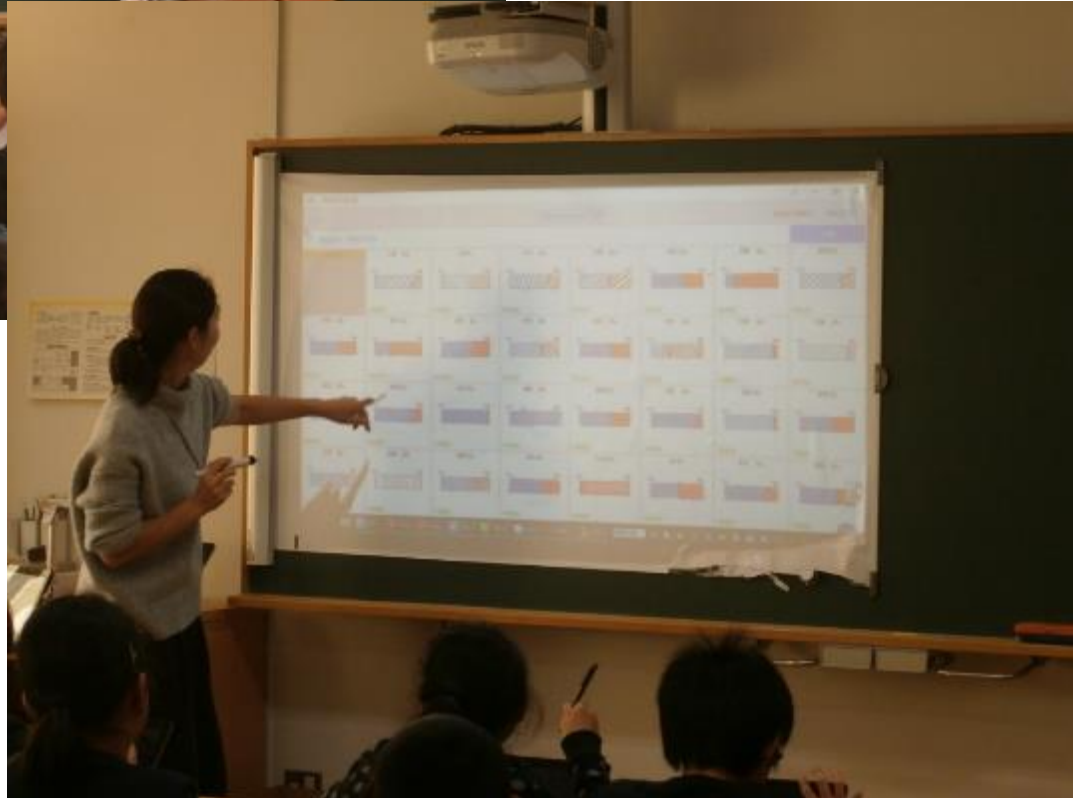
本時のねらい

男女互いに理解し合って友情を育て、
協力しようとする心情を育てる

ICT活用

●個々の考えを共有し、多面的・多角的に考えを広げる手立てとする。(タブレットPC・ロイロノート)

●主題に迫るための書画カメラにの活用



中学部

9年

単元名

集団生活の向上「山に憑かれた男」

本時のねらい 集団生活の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して、
集団生活の充実に努めようとする道徳的判断力を養う。

ICT

- 教学習課題への興味・関心を高めるための教材提示をする。【プレゼンソフト】
- 個々の考えを共有し、多面的・多角的に考えを広げる手立てとする。【タブレットPC・ロイロノート】

授業の様子

導入時に、プレゼンテーションソフトを用いて教材のあらすじを説明することで、教材内容が把握しづらい場合の支援となったり、イメージをもって考えることができたりする。また、タブレットPCのデジタルコンテンツを用いて、自分の立場を色分けし、明確にすることで、主体的に考え、発言することができていた。

展開時には、発問を通して考えを深めていく中で「登山者としての誇りとは何か？」という問いに対して、自分自身の考えを記入し、その考えを共有することで、他者の様々な考えに触れたり、自分の考えを再度考えたりすることができていた。

そこで、道徳科においては、教材提示などのイメージをもっ

て活動に取り組む場合は、個々の考えを全体で共有する活動においては、ICTの活用が有効だったと考える。



プレゼンテーションソフトを用いた教材提示の様子である。教材を一度読むだけでは理解しづらい内容についてもわかりやすく知ることができる。



自分の考えを色分けすることで、個々の考えだけでなく、一目でクラス全体としてどのように考えているかがわかる。

9年 集団生活の向上「山に憑かれた男」

本時のねらい

集団生活の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して、集団生活の充実に努めようとする道徳的判断力を養う

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを用いて、教材のあらすじを確認し、イメージをもって考えることができるようにする
- ・タブレットPC(ロイロノート)を用いて、一人ひとりの考えを全体で共有する

成 果

- ICT機器による一斉提示機能などで、多くの友達の考えを知ることができ、より多面的・多角的に思考することができる。
- 1単位時間の中で、発言など自分の考えを表現することが苦手な児童・生徒も、ICT機器を通して表現することができる。

課 題

- ICT活用により、板書範囲が限られるため、板書の工夫やホワイトボードなど他の教具の活用を考えなければならない。
- ICTにこだわりすぎると、考える時間や交流の時間の十分な確保が難しい。有効に活用できるよう使用場面の精選が必要。



webで最新の
指導案集を公開中

杉並和泉学園のホームページで最新の体育科の指導案集を公開しています。

<https://drive.google.com/file/d/1qdg0DJTVeE3dy07xQHIUG7KRu6bhP4ah/view?usp=sharing>

※一定期間をすぎますと公開を終了させて頂く場合がありますのでご了承ください。

詳しくはこちらから→

